

# 高校英語授業における ラウンド制指導法による実践例とその効果

藤 田 賢

キーワード：高校英語、ラウンド制指導法、実践と効果

## 1. はじめに

高等学校の新学習指導要領が、2018年3月に文部科学省から告示され、2022年度から年次進行で実施される予定である。続いて、同省によって、2018年7月には新学習指導要領の解説も作成された。今回の改訂の特徴は、全教科で育成すべき資質、能力を、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に整理し、すべての教科で、これらの観点から目標や内容を定めたところにある。

外国語科の改訂ポイントは、小学校5年生から教科としての外国語が導入されることから、小中高を通じて、4技能5領域（聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り] [発表]、書くこと）の言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質、能力を育成することを1本の柱としていることである。とりわけ、高等学校の新科目である「英語コミュニケーションⅠ」は、中学校における学習の確実な定着を図り、5つの領域別の言語活動や、複数の領域を結び付けた技能統合的な言語活動を通して、総合的な指導を行う科目であるとされた。具体的には、聞いたり読んだりしたことの概要や要点を目的・場面・状況に応じて捉え、その内容についての情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うためのやり取りを続けたり、論理性に注意して話したり書いたりして伝えたり、伝え合ったりできるようになることが強調された。

本論文では、高等学校における「英語コミュニケーションⅠ」で目指すべき授業を進める方法として「ラウンド制指導法」を用いた実践例を提示する。ラウンド制指導法は、教科書の本文を何度も読みながら、最終的には、読んだことについて発信するところまでをパッケージ化した指導法であり、新学習指導要領で目指すコミュニケーション能力の育成に寄与できる指導方法となることが期待できるからである。

本論文の前半では、これまでの学習指導要領に基づく教科書を教材としつつ、筆者が実際に行ったラウンド制指導法に基づく実践例を紹介する。論文の後半では、ラウンド

制指導法に対する生徒へのアンケートや、ラウンド制指導法と文法訳読法による授業効果を比較した検証結果を提示する。

新学習指導要領による検定教科書はこれから公開されることになる予定であるが、本論文で提示するラウンド制指導法が、新学習指導要領の目指す資質、能力の育成に有効なものとなることが期待できる。

## 2. ラウンド制指導法とそのカスタマイズ

鈴木（2007）によれば、ラウンド制指導法とは「多様な方法を用いて、いろいろな角度から1つの教材を学習させる指導法」と定義づけている。したがって、ラウンド制指導法は、授業の指導テクニックやメソッドというよりは、指導理念やアプローチに近い大きな概念と言えよう。高田（2010）では、「語彙・文法の内在化と言語処理能力の向上により、リーディングとその他の技能を統合して、コミュニケーション能力を伸ばすとともに、大学入試にも対応できる英語力を養成することをめざしている」ことがこの指導法の特徴であることを明確にしている。したがって、ラウンド制指導法は、新学習指導要領（文部科学省、2017a, 2017b, 2018）によって強調されている4技能の統合的指導であり、文章の内容を理解して、理解したことに基づいて発信するという目標にも合致する指導であると考えられる。

藤田（2013a）では、ラウンド制指導法による一般的な指導手順を以下のように整理している。まず、取り扱う単元のできるだけ広い部分を提示しながら、ラウンド1ではパラグラフごとにタイトルを選ばせる。ラウンド2-3では、やや範囲を絞り1パートか2パートごとに概要、要点、細部へと内容理解を進める。生徒は、スラッシュで区切られた英文が教師によって音読されると同時に本文を黙読し、内容についての質問に答える形式で理解を深めていく。ラウンド4では、難しい文について構造を分析し、和訳させたり音読させたりして意味と形式を定着させていく。ラウンド5からは、様々な音読活動を行うことによって、語彙・文法を内在化させるとともに、処理の自動化が進むように促す。これが、インテイク活動である。同時に、T or F や Q & A が閉本で行えるように練習していく。レッスンの最後のラウンドでは、読んだことについてのリテリング（再話）、サマリー作成、プレゼンテーションなどの発信活動を行う。生徒が、読んだことについて、自分の意見や考えを話したり、書いたりできるようになることが最終的な到達点となる。教師や生徒の使用言語は、ラウンドの前半では、日本語使用も必要に応じて認められるが、ラウンドの後半になるにつれて、英語を使った練習や言語活動が中心になっていく。生徒は、復習・定着型の家庭学習をすることが求められ、原則として予習をする必要はない。藤田（2012）では、教材の難易度、生徒の英語力や動機づけなどの状況により、ラウンド制指導法を自分の実践に合うようにカスタマイズする必要があることを指摘した。

### 3. ラウンド制指導法を用いた実践例の紹介

本章では、実際の教科書を用いたラウンド制指導法について詳しく紹介する。実践例は、筆者による現場での実践経験に基づくものである。

#### 3.1. 実践の対象と使用教材、指導のねらい

実践の対象は、高校2年生とする。教材は、検定教科書を用いる。具体的には、PRO-VISION ENGLISH COURSE II New Edition（桐原書店）Lesson 7 World Englishes を使った授業展開を提示していくことにする。文章のタイプは、World Englishes についての説明文である。単元の最終到達としての指導のねらいは以下の2つである。

- ・教科書に書かれている内容を理解し、概要のガイドがあれば、60–80語程度で要点を踏まえて要約して書けるようにさせる。
- ・教科書に書かれている内容について、要約に加えて10語–20語程度で自分の意見や考えを書けるようにさせる。

#### 3.2. ラウンド制指導法のカスタマイズ

本実践例では、高校2年の中期段階でのラウンド制指導法を紹介する。高校2年の中期以降は、本文の内容としては説明文や論説文が増え、使われている語彙や文法の難易度が上がり、文構造も複雑になっていく時期である。検定教科書でも、難しいレベルのものでは教科書本文が大学入試問題に近いものになっている。また、1レッスンを繰り返して何度も読み込むことから、より多くの量の英文を読み込むように転換していく時期にさしかかってきている。そのため、ある程度効率的に、1つの単元に時間をかけ過ぎないで授業を進めていく必要がある。さらに、ラウンドの前半では、日本語を使用し、複雑な英文の内容理解を補助していく配慮も必要となろう。

そこで、以下の図1のようにラウンド制指導法をカスタマイズして進めてはどうだろうか。すべてのラウンドに入る前に、背景知識の活性化を行う。ラウンドに入ったら、教科書の本文の提示単位は、Part 1、Part 2の2パートを同時に提示する。2パートを1つのくくりとして、ラウンドを回していくわけである。これにより、授業を効率よく進めることができる。もちろん、教科書の難易度と生徒の状況によっては無理せず1パートずつの提示でもかまわない。以下の手順は2パート同時提示を基本に説明していく。

実際の授業の手順は以下の通りである。Part 1、Part 2の単語・熟語リストを配付して、単語・熟語の定着練習を行う。次に、Part 1、Part 2について、ラウンド1のパラグラフごとのタイトル選び、概要の把握をさせる。その後、Part 1、Part 2のラウンド2では、パラグラフごとの内容の要点把握をQ & Aで行う。ラウンド3では、Part 1、Part 2の2パートの中から、文構造が複雑な文を取り上げて解説したり、和訳させたり、音読させたりして、細部の内容理解を行う。ラウンド4では、Part 1、Part 2の英日対訳の穴埋めプリントにより、内容、表現の確認を行う。ラウンド5からは、Part 1、Part 2の様々な

音読活動を行い、語彙・文法を定着させ処理の自動化を促す。以上の手順を Part 3、Part 4でも繰り返し行う。

最終ラウンドでは、授業の最終到達目標のタスクを与える。本実践例では、本文の内容について、要約してから、自分の意見や考えを書くタスクを行う。原稿を生徒のペアでレビューし、書いたものを交流する活動も設定し、読み手を意識して発信するようになりたい。最終ラウンドは、1つのレッスンに最低1回あればかまわない。三浦(2016)では、このような課題を「頂上タスク」と名付けている。本実践例では、Part 1、Part 2の最終ラウンドの例を提示するが、1レッスンで1回のみ最終ラウンドを行う場合には、概してPart 4が各レッスンのまとめになっていることから、これに基づいて最終ラウンドの頂上タスクを考えるとよい。

以上の指導手順を図1に示しておく。

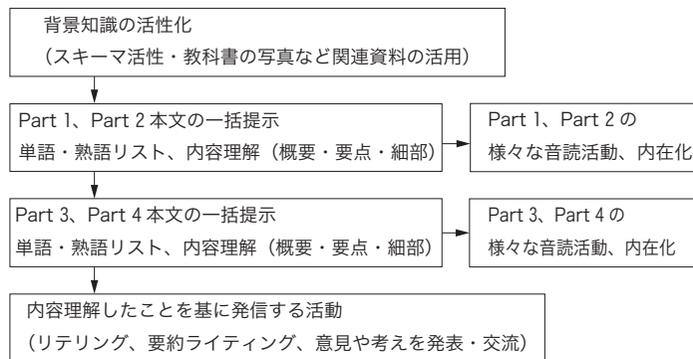


図1 ラウンド制指導法のカスタマイズ例 (高校2年の中期)

### 3.3. ラウンド制指導法と単元計画

単元計画を考える場合には、以上の手順を1時限の授業ごとに割り振りながら、単元全体を何時限で終わらせるかを考えることになる。たとえば、50分を1時限の授業とした場合には、以下のような単元計画が考えられる。

- 1 時限：背景知識の活性化、Part 1, Part 2の単語・熟語リスト、内容理解 (概要)
- 2 時限：Part 1, Part 2の単語・熟語リスト復習、内容理解復習 (概要)、内容理解 (要点、細部)
- 3 時限：Part 1, Part 2の単語・熟語リスト復習、内容理解 (全体) の復習、対訳ハンドアウト、様々な音読活動
- 4 時限：Part 1, Part 2の様々な音読活動、インテイク・リーディング
- 5 時限：Part 1, Part 2のインテイク・リーディング復習、Part 3, Part 4の単語・熟語リスト、内容理解 (概要)

- 6 時限：Part 3, Part 4 の単語・熟語リスト復習、内容理解復習（概要）、内容理解（要点、細部）
- 7 時限：Part 3, Part 4 の単語・熟語リスト復習、内容理解（全体）の復習、対訳ハンドアウト、様々な音読活動
- 8 時限：Part 3, Part 4 の様々な音読活動、インテイク・リーディング
- 9 時限：Part 3, Part 4 のインテイク・リーディング復習、発信タスク（ライティング）
- 10 時限：発信タスク（交流）、巻末練習問題

これらの単元計画は、生徒の状況によって調整していく必要があるが、本実践例の場合には、8～10時限程度で進めば標準的なものとなる。各時限の手順を考える際には、その授業までに行ったラウンドの復習を必ず最初に行いながら、次のラウンドへ繋いでいくことが大切である。また、授業で行ったラウンドの復習を家庭学習にして、授業と授業を結んでいくという視点も必要である。たとえば、様々な音読や、音読筆写などを家庭学習とすることが考えられる。

### 3.4. 指導例

#### 3.4.1. 背景知識の活性化

ラウンド指導に入る前に、本文の内容に関するオーラル・イントロダクションを行う。教科書の写真を活用したり、絵や画像などをインターネット上から探して提示する。プレゼンテーションソフトを活用することができればよいが、教室環境によっては、A3程度にプリントアウトして黒板に掲示して行えば十分である。

本レッスンでは、図2のような Kachru の World Englishes の三重円モデルを掲示して教科書へのオーラル・イントロダクションを行うことを提案したい。

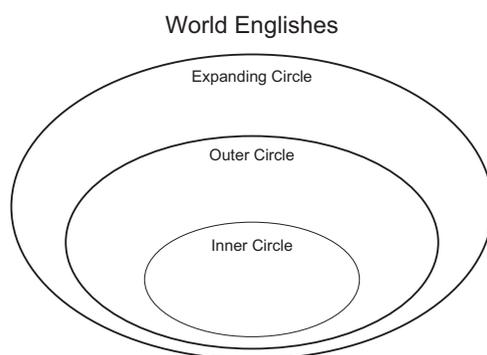


図2 World Englishes の三重円モデル

【授業の流れ】

T : This is a model of World Englishes by an expert, a university teacher. What is World Englishes in Japanese, S1?

S1 : 世界の英語

T : That's right! 世界の英語 or 国際英語. There are three types of World Englishes: Inner Circle, Outer Circle, and Expanding Circle.

Inner Circle has ENL, English as Native Language. (Inner Circle に ENL と板書する)  
Where in the world is English used as a native language, S2?

S2 : USA.

T : Yes, English is used as a native language in the USA. (Inner CircleにUSAと板書) Where else, S3?

S3 : UK?

T : In the UK, right. Canada, Australia, and so on. (次々に板書) How many people speak English as their native language? Can you guess? Choose one from three options; A: 200 million, B: 400 million, C: 600 million. (200 million = 2億などのように板書)、Answer A, raise your hand?, How about B?, How about C? (選択肢ごとに挙手させる) It is said that 400 million use English as their native language. (本文で使われている It is said that などの表現を口頭で導入しておく) OK, repeat after me. It is said that

SS: It is said that

T : 400 million use English as their native language.

SS: 400 million use English as their native language.

〈以下、Outer Circle、Expanding Circle とオーラル・イントロダクションを進める〉

オーラル・イントロダクションを進めるときの留意点としては、

- (1) 易しい英語を使うこと、難しい表現は繰り返したり、易しく言い換えること
- (2) 教科書本文で使われている語彙や表現は取り入れ、場合によってはリピートさせたりすること
- (3) 教師の一方的説明にならないように絶えず生徒とやり取りしながら進めることなどである。大切なことは、教科書本文の内容への興味・関心が高まり、教科書本文を読みたくなるように、生徒の背景知識を活性化させることである。

### 3.4.2. 教科書本文の内容理解

ここからがラウンド指導の始まりとなる。ラウンド1より順に説明していく。

#### (1) 単語・熟語の導入

単語・熟語の導入にあたっては、以下の付録資料1のような単語・熟語リストを最初に配付する。文脈から類推できる語は、最初は意味を与えず考えさせる方法もあるが、

高校2年の中期以降は、複雑な文が多くなっていくことから、新出語彙のリストについてはそのまま与えて内容理解の効率をよくしていく必要がある。意味も、日本語で提示し、日本語を補助としながら単語・熟語の音声と意味を定着させていく必要がある。

付録資料1 単語・熟語リスト（最初の部分のみを掲載）

Lesson 7, Part 1, Part 2			
	単語・熟語	品詞	意味
1	Latin	名詞	ラテン語
2	prove	動詞	証明する
3	statistics	名詞	統計
4	concerning	前置詞	～に関して
5	billion	名詞	10億
6	figure	名詞	数字
7	particularly	副詞	特に、とりわけ
8	speaker	名詞	話す人
9	Spanish	名詞	スペイン語
10	nevertheless	副詞	それにもかかわらず
11	supposedly	副詞	たぶん、おそらく
12	label	動詞	～として分類する、～と呼ぶ

【授業の流れ】

T : Now let's check new words and phrases. I will say a Japanese meaning. Then, please answer the English word or phrase. I'll repeat the English, so say it aloud again. Let's begin.

「ラテン語」

SS: Latin

T : Latin（正しくははっきりとしたモデルとなる発音で）

SS: Latin

〈以下順に練習させていく〉

単語・熟語の定着方法は上記の手順で進める。最後まで練習したら、ランダムに練習させてみたり、プリントを見ずに練習させてみたりする。ペア・ワークを活用して練習させてもよい。また、フラッシュカードやプレゼンテーションソフトを活用して練習させることもできる。

(2) 内容理解と概要・要点の把握

ラウンド1、ラウンド2に当たる指導である。ラウンド1では、教師がスラッシュごとにポーズ（平均7±2音節程度の意味単位を目安に1-2秒のポーズ）を置きながら読んでいくので、生徒は教師の音読をリスニングしながら、本文を黙読する。段落ごとにタイトルを選び、内容の概要を把握する。この時、クラス全体の理解度をチェックする

ために、教科書の表裏縦横などを利用して生徒に答えを示させてみる方法、いわゆる「教科書による簡易アナライザー」の活用もできる。その後、教師が再度読んだ後、答えをチェックしていく。

ラウンド2では、ラウンド1と同じ進め方で、生徒は内容の要点についての質問に答える。ハンドアウトの選択肢や質問は英語にすることも考えられるが、高校2年の中期以降では本文が複雑で内容が難しくなるため、日本語での理解補助が必要ではないかと思われる。以下に、実際のハンドアウト例を付録資料2として掲載しておく。

付録資料2 (Part 1のみを掲載)

Lesson 7 World Englishes Part 1  
次の英文を読み、以下の間に答えなさい。

¶1 In 1780 John Adams said, / “English is destined to be in the next and succeeding centuries / more generally the language of the world / than Latin was in the last age / or French is in the present age.” // It took close to 200 years / before he was proved right. //

¶2 No exact statistics exist / concerning the number of people / using English in the world. // However, / it is said that / more than one billion people speak English. // According to some experts, / 1.5 billion people use English in one way or another, / of which 400 million use it as their native language, / while the remaining use it as a second or foreign language. // The figure “one billion” itself / is not particularly surprising, / compared with the number of speakers of, / say, / Chinese or Spanish. // Nevertheless, / the fact that, / out of 3,000 or 5,000 languages / supposedly existing on earth, / English is the only language / that can be labeled “a global language” / is worth mentioning. // At present, / the status of English in the map of world languages / is quite unique. //

①各パラグラフの概要を答えなさい。

¶1 (            ) ¶2 (            )

ア ジョン・アダムズ大統領の予言  
イ 国際的に使用されている中国語とスペイン語  
ウ 現代における英語の使用状況とグローバル言語  
エ ラテン語とフランス語の運命

②各パラグラフを読んで要点を答えなさい。

¶1 ジョン・アダムズ大統領の発言の200年後に明らかになったことはどんなことでしたか？

¶2 専門家によれば、英語を母語とする人々、第二言語や外国語とする人々の数はどのぐらいですか？

(3) 内容理解と細部の把握

本文の中で、文構造が複雑な文については、記号づけを行うなどして、文の構造を可視化し、日本語訳もさせる。このことにより、文章の細部の内容把握ができるようになる。その上で、様々な方法で音読をさせ、複雑な文構造と音声と意味を内在化させ、処理の自動化が進むように練習する。

「記号付け」による内容理解のハンドアウトは、寺島（2000）などで整理されてきたものをアレンジして使うのが参考になる。具体的には、

- (1) 単語は\_\_\_\_\_（下線）、熟語・コロケーションは\_\_\_\_\_（二重線）
- (2) 動詞は○
- (3) 「\_\_\_\_\_○\_\_\_\_\_」の場合は「\_\_\_\_\_は\_\_\_\_\_を○する」という意味（主語が長い時、[ ]は、と示す場合がある）
- (4) 前置詞句は○\_\_\_\_\_
- (5) 接続詞（従属）、関係詞は□\_\_\_\_\_
- (6) 不定詞、分詞、動名詞は\_\_\_\_\_（波線）
- (7) 修飾関係を矢印で明示したり、同格関係がわかるように記号をつける
- (8) 意味を把握する場合には、(5)(6)の前で立ち止まって処理をすると効率的
- (9) 和訳する場合には①、②などをつけて和訳順を示す場合がある

などの原則であるが、もちろん使いやすいように工夫することも可能である。要は、複雑な文構造を記号づけによって見える構造にして生徒に提示することである。以下に、細部の内容理解のためのハンドアウトを付録資料3として掲載しておく。

付録資料3 （Part 1のみを掲載）

[1] According to some experts, 1.5 billion people use English in one way or another,  
of which 400 million use it as their native language,  
while the remaining use it as a second or foreign language.

【和訳】

[2] Nevertheless,  
the fact that out of 3,000 or 5,000 languages supposedly existing on earth,  
English is the only language that can be labeled "a global language"  
is worth mentioning.

【和訳】

### 3.4.3. 様々な音読活用による言語形式、意味の内在化

概略・要点・細部とラウンドが進むにつれて、より小さな部分まで内容理解を済ませることになる。その後は、様々な音読活動に移っていく。様々な音読活動を行う準備として、英日対訳シートを配付する。対訳シートは完全なものを配付して、いわゆる「和訳中渡し」の形態で進めることもできるが、ここでは、穴あき対訳ハンドアウトを活用して、再度、全体的な内容を確認させる作業を行わせることを提案する。内容理解を復習し、様々な音読活動へと繋いでいくためである。穴あき対訳ハンドアウトの例を付録資料4として掲載しておく。

続いて、音読活動へ移る。音読活動では、様々な音読の方法を組み合わせさせて練習させる。たとえば、1文ごとに交代して音読する「リレー音読」、1人が先行したのを追いかけて速く読む「追っかけ音読」、1人が日本語を読んで対応する英語を言う「同時通訳方式」、CDなどに少し遅れて復唱するシャドーイング、状況を設定して感情を込めて読む「なりきり音読」、意味単位や文単位で黙読して覚えてから顔を上げて言う「リード・アンド・ルックアップ」などがある。生徒は、これらの音読活動を行うことによって、教科書が正しく読め、内容を確認し、処理の自動化が進むようになっていく。活動形態は音読の種類によって、個人、ペア、グループなど工夫して行う。

齋藤（2011）では、内容理解したことを内在化させ、発信するときに使える練習として、前に述べた「リード・アンド・ルックアップ」と「インテイク・リーディング」が必要であるとしている。インテイク・リーディングは、生徒がペアになって、1人が教科書にある1文を言う、もう1人がその文を、1語も間違えず復唱するというものである。教科書の一部でもかまわないし、教科書を分割して毎時間帯活動としてもかまわない。ポイントは、どんなに長い文でも必ず1文単位で行うこと、冠詞、複数のsに至るまで少しでも間違えたらダメだとすることである。このような練習によって、初めて発信で使える語彙・文法や表現がインテイクできるとしている（齋藤, 2011, pp. 68-69）。言語形式と意味の内在化のためには、リード・アンド・ルックアップやインテイク・リーディングまでを行いたい。

高校2年生の中期以降は文章が複雑になり、かなり難解な文章も出てくる。授業の最初に、前ラウンドの復習として、リード・アンド・ルックアップやインテイク・リーディングを取り入れることも考えられる。また、教科書マニュアル等の要約文を活用して、これらの活動をすれば、次の発信活動のラウンドへの橋渡しとすることもできよう。

付録資料4 (Part 1の途中までを掲載)

Lesson 7 World Englishes Part 1, Part 2	
In 1780 John Adams said, “English ( ) ( ) ( ) be in the next and succeeding centuries more generally the language of the world than Latin was in the last age or French is in the ( ) ( )”	1780年にジョン・アダムズは～と言った 「英語は～となるように運命づけられている 次のそして_____世紀において、 より_____に 世界の言語 前時代におけるラテン語よりも あるいは現在におけるフランス語」
It took ( ) ( ) 200 years before he was proved right.	200年近くかかった 彼が_____と_____までには

No exact statistics exist ( ) the number of people using English in the world.	_____な_____は_____しない 人口に関して 世界で英語を使っている
However, it is said that more than ( ) ( ) people speak English.	しかしながら、 ～と言われている 10億人以上が 英語を話している
( ) ( ) some experts, 1.5 billion people use English in one way or another, of which ( ) ( ) use it as their ( ) ( ), while the remaining use it as a second or foreign language.	一部の専門家によると、 15億人が英語を使っており _____で、 _____の4億人が使っている 母語として、 一方で、その_____が使っている 第二言語か外国語として

### 3.4.4. 内容理解したことを基に発信する活動

ラウンドの最終段階は、読んで理解した内容を要約し、それについての自分の意見や考えを入れて発信する活動を行う。全く補助がない段階から要約文を作るのは高校2年の中期レベルではやや難しい。そこで、要点ガイドを示し、意見や考えを求める発信タスクを提示するのも1つの方法である。付録資料5にPart 1, Part 2に重点を置いたライティングによる発信タスク例を掲載しておく。

付録資料5

**Lesson 7 World Englishes**

問 題 Summarize the passage and write your opinion using 70 or more words (70-100), following the format below. You have to give reasons as well.

要点ガイド

① 10億人が世界で英語を話す。  
 ② 英語は唯一の「グローバル言語」である。  
 ③ 言語の地位は上がったたり下がったりする。  
 ④ 英語が現在の地位を保っても、急速に変化するだろう。  
 ⑤ 「このような英語の変化についてあなたが思うことを理由を挙げて書きなさい。」

英作文

---



---



---

〈途中省略〉

Class( ) No.( ) Name( )

**【Peer Review】** Underline the good parts in red and those parts difficult to understand in black.  
 Write some comments here.

[ ]

要点ガイドに従って、①～④で要約を英語で書かせてから、⑤では自分の意見や考えを理由を添えて書かせるようなタスクになっている。書き終えたら、ペアで用紙を交換し、ピア・レビューを行うことを最初に言っておけば、読み手を意識して書くことができるし、友だちとの意見交換をすることもできる。ペアでの交流の際には、いいと思うところに赤線、理解しにくい内容や表現に黒線を付けて、コメントを書かせるとよい。

実践例では、ライティングによる発信タスクを行っているが、スピーキングの課題とすることもできる。この場合には、即興の発表課題で行うことも可能だし、書いてから話せば原稿を準備した発表課題とすることもできる。やり取りを重視すれば、ディスカッション課題として提示することも検討してよい。

#### 4. 定期考査での問題例

本章では、教科書をラウンド制指導法で学んだ後に、定期考査（この場合は、筆記テストによる中間、期末考査を想定）で取り上げる場合について紹介したい。取り上げる項目としては、語彙、文法、内容理解、発信タスクなど授業で扱ったものを、定期考査

でも取り上げるようにすることが大切である。ただし、それぞれのラウンドで行ったことを応用した課題を設定することや、発信タスクでは出題予告、採点方法に工夫が必要となる。ここでは、語彙、内容理解、発信タスク（書くこと）についての問題例や留意点について述べていく。

語彙については、ラウンド制指導法では、リスト形式で、日本語の補助をつけながら指導してきた。定期考査では、これらの語彙が定着したかどうかをテストして見る必要がある。その際、たとえば、英語で定義して語彙を問う問題が考えられる。問題例を付録資料 6 に示す。

付録資料 6 語彙の定期考査問題例

Write down the words or phrases in the blanks.

	English	Japanese
1	( )	show that something is true
2	( )( )	language you speak from your birth
3	( )	existing after the other parts have been taken
4	( )	a number in official information
5	( )	put a tag on something and make a group
6	( )	a place in a race or contest
7	( )( )	permanently, or without ending
8	( )	some reason which causes the event
9	( )	the fact of being or existing in a place
10	( )	average or normal, not special

内容理解については、教科書本文についての何らかの課題（Q & A、T/F、情報転移、文・段落整序、空所補充、和訳）を与えて内容が理解できたかどうかを判断していく。定期考査では、本文指導のラウンドで使用しなかった課題で内容理解の問題を出題してはどうだろうか。たとえば、穴埋めサマリーの問題や、実践例では使用しなかったグラフィック・オーガナイザーによる情報転移（Information Transfer）タスクを定期考査で出題することが考えられる。付録資料 7、8 に問題例を掲載しておく。

発信タスク（書くこと）については、授業に行ったものと似たタスクを大問の 1 つに加えることが望ましい。定期テストの出題によって、授業でのラウンド指導へのよい波及効果も期待できるからである。ライティング問題を出題する場合には、課題・タスクの自由度、採点方法、生徒への予告、配点と時間配分などをどうするかについてよく考えておく必要がある。

たとえば、付録資料 5 のラウンド指導をそのまま定期考査のライティング課題として出題することが考えられる。この場合に採点方法は、①～⑤の文章ごとに 1 点とし、全体で 5 点満点、意味が把握できるかどうかで判断すれば簡単に採点ができる。あるいは

は、語彙・文法3点、内容3点、形式1点として観点別の評価基準をループリックにして生徒にテスト前に提示しておくことも可能である。定期考査でのライティング課題は、時間は5～10分程度、配点は5～10点程度が適切であろう(藤田, 2013b)。

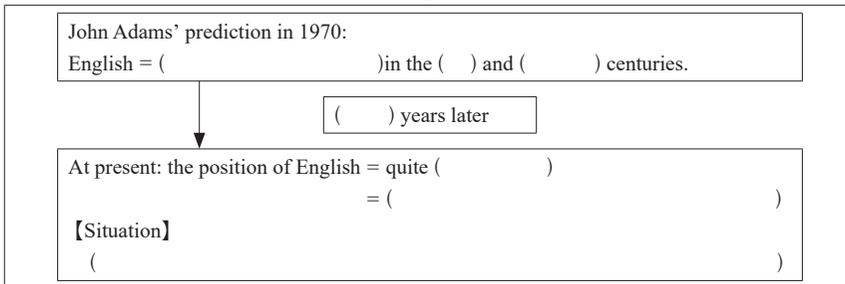
付録資料7 内容理解の定期考査問題例(穴埋めサマリー)

Read the passage and fill in the blanks to complete the summary.

The former U.S. President John Adams said English will become the ( ) ( ) . Two hundred years later, he was ( ) right. It is said that ( ) ( ) people speak English in the world. About 400 million use it as their ( ) language, and the ( ) people use it as a ( ) or ( ) language. It is important that English is the only “global language.”

付録資料8 内容理解の定期考査問題例(情報転移)

Read the passage and fill in the blanks to complete the chart.



## 5. 指導効果

ラウンド制指導法の効果は、どのように把握すればいいだろうか。ラウンド制指導法は、前に述べたように、コミュニケーション能力を伸ばすとともに、大学入試にも対応できる英語力を養成することを目指すことを目標にしている。そうであるとすれば、その効果は、定期考査や授業でのパフォーマンス評価だけでなく、模試や英検、GTECなどの熟達度テスト、授業改善アンケートなどからもその効果を把握しておく必要がある。特に、高校2年の中期は、大学入試を意識し始める時期であり、英語力に不安を持つ生徒が出て来る頃でもある。ラウンド制指導法は、特定の定められた指導のテクニックやメソッドというよりは、指導理念やアプローチに近い大きな概念である。定期的に、生徒の声を聞きながら、よりよいラウンド制指導法を目指してカスタマイズし直し、改善していくという視点が重要である。

以下の付録資料9、10は、ラウンド制指導法の授業改善アンケート例と筆者の実践での結果である。授業アンケートでは、ラウンド制指導法を柱とした一連の取り組みについて実践の評価を行った。アンケートは、年度末に行い、2講座52名から回収できた。結果は、全体的に好評であった。注目すべき結果は以下の通りであった。ラウンド

制指導法を柱にした授業理解では、1名を除く全員が4件法の3（まあ理解できる）以上の評価をつけた。ラウンド制指導法を柱とした授業では、ほとんど全員が授業を理解できたようであった。

付録資料9 英語授業改善アンケート

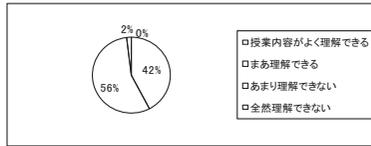
英語 授業改善アンケート			
ラウンド制指導法による英語の授業についての感想を書いてください。			
1 授業の形式(ラウンド制指導法)について			
授業内容がよく理解できる	( )	あまり理解できない	( )
まあ理解できる	( )	全然理解できない	( )
2 先生の音読を聞いて黙読することで、全体概要・要点が把握できるようになってきたと思いますか？			
とても思う	( )	あまりそう思わない	( )
まあ思う	( )	全然そう思わない	( )
3 記号付けによる英文を読むことで、細部の内容がよく理解できるようになってきたと思いますか？			
とても思う	( )	あまりそう思わない	( )
まあ思う	( )	全然そう思わない	( )
4 対訳プリントを使った音読やインテイク・リーディングで英文が定着するようになってきたと思いますか？			
とても思う	( )	あまりそう思わない	( )
まあ思う	( )	全然そう思わない	( )
5 英文を要約したり、考えを作文したりすることで表現する力がついてきたと思いますか？			
とても思う	( )	あまりそう思わない	( )
まあ思う	( )	全然そう思わない	( )
6 4技能(読む・聞く・話す・書く)のうちどれが伸びたと思いますか？			
読む	( )	話す	( )
聞く	( )	書く	( )
<その他、授業への要望など自由に書いてください>			

さらに、4技能別の伸びの実感についても回答させた。あくまでも、授業を受けての本人の実感についての質問である。結果は、読むことと書くことの技能が伸びたと答えた者が、それぞれ58%、23%であったのに対し、話すことに、聞くことについては、少なかった。これらの結果は、実践の時点での、話すこと、聞くことのオーラルでの言語活動が不足していたためではないかと考えられる。しかし、取り組みの少なかったオーラル技能においても、少数の者が伸びの実感があったと答えたことは、ラウンド制指導法の効果が4技能全般において期待できることを裏付けるものではないかと思われる。同時に、話すこと、聞くことの指導の工夫については今後の課題となった。

付録資料10 授業改善アンケート結果

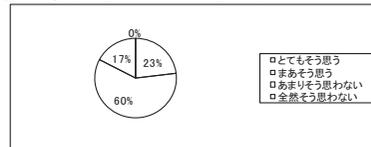
1 授業の形式(ラウンド制)について

	合計
授業内容がよく理解できる	22
まあ理解できる	29
あまり理解できない	1
全然理解できない	0



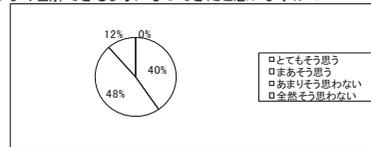
2. 先生の音読を聞いて黙読することで、全体概要・要点が把握できるようになってきたと思いますか？

	合計
とても思う	12
まあ思う	31
あまりそう思わない	9
全然そう思わない	0



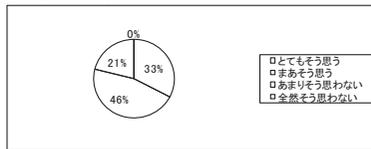
3 記号付けによる英文を読むことで、細部の内容がよく理解できるようになってきたと思いますか？

	合計
とても思う	21
まあ思う	25
あまりそう思わない	6
全然そう思わない	0



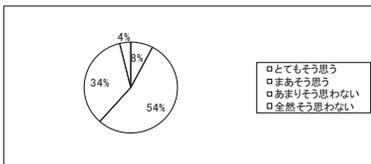
4 対訳プリントを使った音読やインテイク・リーディングで英文が定着するようになってきたと思いますか？

	合計
とても思う	17
まあ思う	24
あまりそう思わない	11
全然そう思わない	0



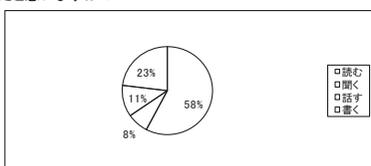
5 英文を要約したり、考えを作文したりすることで表現する力がついてきたと思いますか？

	合計
とても思う	4
まあ思う	28
あまりそう思わない	18
全然そう思わない	2



6 4技能(読む・聞く・話す・書く)のうちどれが伸びたと思いますか？

	合計
読む	30
聞く	4
話す	6
書く	12



筆者は、実践例の学年が3年になってからも、ラウンド制指導法と、文法訳読法の授業を比較して、模試での総合点の推移を追ったことがある。事例として以下に概略を報告しておく。図3、図4は、ラウンド制指導法中心の1クラスと文法訳読法中心の1クラスの模試の全国偏差値の推移である。3年次のラウンド制指導法は後半のラウンドを減らして実践したため、2年次のものと指導の重点は変化していた。したがって、文法訳読法との大きな違いは、文法訳読法が語彙・文法知識による英文解析を中心に授業を進めていたのに対し、ラウンド制指導法では、何度も繰り返し英文を読み、音読によつ

て語彙や文法を定着させ、処理の自動化を促進させていったところにあると考えてよい。学年が上がり時期が遅くなるにつれて、上位層の受験者が増えることから、模試の全国偏差値は一般には下がる傾向がないわけではない。しかしながら、本実践では、二元配置の分散分析による統計検定の結果、指導法による差がなく、マーク模試については、ラウンド制指導法のみにおいて、5月のマーク模試から8月のマーク模試にかけての伸びが統計的に有意であり、その後は同じ水準を維持していったことが明らかになった。一方で、記述模試においては、ラウンド制指導法でも、文法訳読法でも、5月、9月、11月の期間ごとの伸びが有意であることが明らかになった。

以上のような事例研究の結果から、ラウンド制指導法でも、文法訳読中心の授業と同じ程度に、センター試験にも記述試験にも対応することができたのではないと思われる。今後は、4技能入試への効果についても検証していく必要がある。

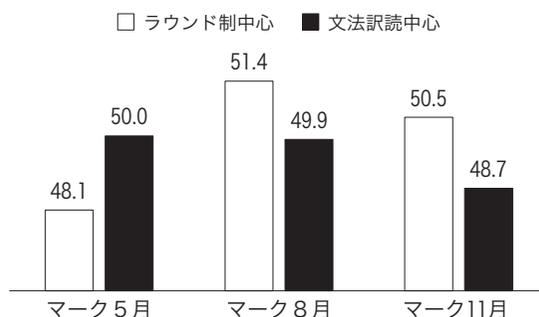


図3 マーク模試でのラウンド制指導法と文法訳読法の比較

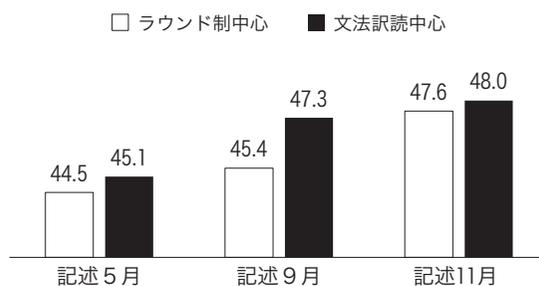


図4 記述模試でのラウンド制指導法と文法訳読法の比較

## 6. まとめと今後の課題

グローバル化に対応した英語教育の改革を行うために、文部科学省は、今回の学習指導要領を改訂したといわれている。小学校3、4年生から外国語活動を開始し、小学校

5年生から高校卒業まで外国語を教科として学んでいく仕組みになった。4技能5領域での英語の学びにおいても、言語活動を通して、技能を統合的に学び、総合的な学習を行うことが求められている。

本論文では、高等学校における教科書を用いたラウンド制指導法による実践例を提示し、筆者が行った実践の効果についてのデータを提示した。これらの結果から、ラウンド制指導法が、新学習指導要領で要請されているコミュニケーション能力を育成する方法として有効であることを明らかにしてきた。

最後に今後の課題をいくつか挙げておきたい。具体的に考えられる課題としては、

- (1) 新しい教科書を教材として実践を組み立てて見ること
- (2) 日本語で説明した方がよい時と、英語で授業を進めた方がよい場合を整理すること
- (3) ラウンド制指導法の4技能入試への効果について検証してみること
- (4) 小、中学校の教科書の指導においてどのようにラウンド制指導法が使えるか試行を重ねること

などの点が考えられる。

ラウンド制指導法が、新しい学習指導要領や新しい教科書において、コミュニケーション能力を育成するための誰にでも実践できる方法として広がることを期待して本稿を閉じる。

#### 引用文献

- 齋藤榮二 (2011). 『生徒の間違いを減らす英語指導法』東京：三省堂.
- 鈴木寿一 (2007). 『平成18年度 Super English Language High School 研究開発実施報告書』京都外大西高等学校.
- 高田哲朗 (2010). 「ラウンド制リーディング指導法」門田修平・野呂忠司・氏木道人 (編著) 『英語リーディング指導ハンドブック』(152-157頁). 東京：大修館書店.
- 寺島隆吉 (2000). 『英語にとって「文法」とは何か?』東京：あすなろ社.
- 原口庄輔 (編) (2008). *PRO-VISION ENGLISH COURSE II New Edition*. 東京：桐原書店.
- 藤田 賢 (2012). 「『ラウンド制指導法』を用いた教科書を使った英語で行う授業の研究」『中部地区英語教育学会紀要』第41号, 221-228.
- 藤田 賢 (2013a). 「高校英語授業における『ラウンド制指導法』と『文法訳読法』による効果の比較」『中部地区英語教育学会紀要』第42号, 269-274.
- 藤田 賢 (2013b). 「『質・量充実』時代のリーディング・テストで大切にしたいこと」『英語教育』62(6), 32-34.
- 三浦 孝 (2016). 「英文の内容理解だけに終始する英語授業をどう脱却するか」三浦孝・亘理陽一・山本孝次・柳田 綾 (編著) 『高校英語授業を知的にしたい』(2-10頁). 東京：研究

社.

文部科学省 (2017a). 『小学校学習指導要領』 2017年 9月 4日検索

[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384661\\_4\\_2.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384661_4_2.pdf)

文部科学省 (2017b). 『中学校学習指導要領』 2017年 9月 4日検索

[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2017/06/21/1384661\\_5.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/06/21/1384661_5.pdf)

文部科学省 (2018). 『高等学校学習指導要領』 2018年 7月 6日検索

[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2018/04/24/1384661\\_6\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2018/04/24/1384661_6_1.pdf)